



第46回鳥取しゃんしゃん祭 参加レポート

8月16日(月)、鳥取市の風物詩「第46回鳥取しゃんしゃん祭」に、本学学生と同窓生(鳥取環境大学同窓会Re:TUSE)合わせて100人近くが鳥取環境大学連として参加しました。

「鳥取しゃんしゃん祭」は、江戸時代末期の雨乞いの踊りが起源とされています。本学は開学以来、毎年「連」を組み参加してきました。

今年度は練習時間を昨年より5割増やし、踊り子リーダーには、踊り講習会に出席して、正しい振り付けの再確認をしてもらいました。そして、指導方法の検討や問題点の改善を行いました。なかなか練習に参加できない学生もリーダーや委員会が協力して、時間外の練習や自主練習を行い、祭当日に向けて地道ながらも確実に学生の踊りは上達していきました。今年は隊列を組んでの練習も昨年より多く行い、統一性を高めることにも成功しました。

祭の日程は8月16日と昨年より一週間遅い日程となりましたが、今年は早い段階で着替え会場等の確保を行ったので、大きな問題は起きず、とてもスムーズに準備する事が出来ました。そして、教職員の皆様・地域の方々のご好意や協力のおかげで、無事100名近い学生のサポートをすることが出来ました。

今年のしゃんしゃん祭は、基本踊りの「きなんせ節」と「鳥取しゃんしゃん踊り」の統一感に重点を置いた流れになっていたため、一斉美を目標に練習を進めました。練習では、傘の振り方や



角度、列を乱さずみんなで息を合わせて踊ることなどを目標に、全体で美しく見えるよう努力しました。

出陣式では八村理事長を始め、古澤学長、西田就職担当参与、谷口常務理事から激励の言葉を頂戴し、総代の掛け声で学生の意識を高め踊りに向かう事が出来ました。パレードが開始されると踊り子全員が一丸となり、大きな掛け声とともに若桜街道と智頭街道を踊り歩きました。祭開始直後は、雲がかかっており、雨で中止にならないかと心配していましたが、雨が強くなる事はなく、雲は晴れ、雨乞いの踊りではなく、晴れ乞いの踊りかと思えました。残念ながらコンテストに入賞する事はできませんでしたが、今年の声の出し方や踊りの統一感等は、教員・同窓生ともに今までで1番と認める出来となりました。そして、来年こそコンテストで入賞するとみんなが意気込んでいました。

また、今年も学生の有志で結成する「ゴミ拾い隊」が活躍しました。連の後ろに付き、沿道にある傘の破損ゴミや煙草の吸殻等多くのゴミを回収分別して鳥取環境大学生らしく環境美化に努めました。

今年は、けが人を出さずに無事に終わることができ、踊り終わった学生からはとても楽しかったと感想をもらいました。それは、練習から本番まで踊り子を先導してくれたリーダー、踊り子、ゴミ拾い隊の皆、教職員の皆様そして地域の方々のおかげで得られた思い出だと思います。そして常に努力しサポートに回ってくれた委員会メンバーの頑張りの賜物だと思います。来年は今年よりも良い祭になるように、踊り子達が楽しめるように、そして見ている人により一層楽しんでもらえるように努力していきたいと思えます。

最後に、毎年しゃんしゃん祭への参加支援をいただいている同窓会並びに、大学関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。今後の活動においても、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

年に1度のしゃんしゃん祭が、参加してくれた全ての方にとって夏のよい思い出となりますように、そしてこの感動がこれからも鳥取環境大学を盛り上げていくように願います。

TUESしゃんしゃん愛好会 委員長
竹島 昌邦(情報システム学科2年)



清州大学との交流



今回、私は今年度で3回目となる韓国・清州大学校との交流プログラムに参加しました。このプログラムは大学間で相互に学生を派遣し文化研修を行うというもので、8月17日から20日までの4日間に本学学生が清州市を訪問し、8月24日から27日の4日間に清州大学校の学生が鳥取市を訪問しました。今年度は本学から8名と清州大学から10名の参加でした。私は以前から韓国の文化に興味があり、韓国に行ってみたいと思っていたので、この

プログラムに参加しました。

8月17日、私たちは岡山空港から仁川国際空港に向け出発しました。仁川国際空港では清州大生が「鳥取環境大学の皆様心より歓迎します」と書かれた横断幕を掲げて笑顔で出迎えてくださり、清州大生の温かい歓迎に感激しました。初日は、明洞、ソウルタワーに行きました。2日目は清州大学校見学、韓国文化についての講義、清州古印刷博物館、韓国の伝統音楽の体験。3日目はハーブ園、ドラマのロケ地巡りをして、清州市の副市長とお会いしました。最終日はソウルで買い物をしました。

その中で特に印象に残ったのは、韓国の伝統音楽の体験でした。みんなでそれぞれ3種類の楽器を担当して演奏しました。私は太鼓の一種「つづみ(チャング)」を担当しました。最初は、太鼓を打つリズムがうまくとれませんでしたでしたが、演奏家さんたちが丁寧に身振り手振りで教えてくださったのでなんとか太鼓を打つことができました。そして最後に皆で演奏したとき一

体感が生まれました。私は「今、韓国に居るのだ」と改めて感じました。韓国での楽しい日々はあっという間に過ぎていきました。

8月24日には清州大生たちが来日しました。初日は日韓友好交流公園「風の丘」と鳥取砂丘へ行きました。2日目は鹿野そば道場、青谷和紙工房、山根酒造場、浜村温泉に行き、3日目は鳥取市の副市長にお会いして、本学で荒田先生の海ごみの講義を受け、浴衣・茶道体験をしました。最終日はジャスコ日吉津店に行き、米子空港で清州大生を見送りました。清州大生に鳥取で何が楽しかったかと聞くと、鳥取砂丘や浴衣の着付けなどが楽しかったと答えてくれました。私は清州大生の方が鳥取を楽しんでいただけるかどうか心配だったので、楽しかったと返事をもらえたとのことでほっとしました。

今回のプログラムで私が一番不安だったことは、言葉でした。韓国へ発つ1ヶ月前から韓国語を少し勉強していましたが、やはり付け焼刃でほとん



ど役に立ちませんでした。幸い清州大生には日本語を専攻している学生が多く、日本語が上手な学生が多かったのでコミュニケーションを取ることはできましたが、それでも言葉が通じない

場面もあり「ああ、韓国語か英語が話せたらなあ。」と思うことがしばしばありました。今回のプログラムで改めて言語を学習する重要性を確認しました。それでも、片言の韓国語でコミュニケーションが取れたときは本当にうれしかったです。韓国料理を食べて韓国の方に「マシッタ(おいしい)」と言うと、とてもうれしそうでした。たとえ、片言やジェスチャーでも気持ちが伝われば、本当にうれしいことです。今後、もっと韓国語の勉強をして韓国の友達を増やして行きたいと思います。この交流プログラムは異文化体験だけでなく、様々なことを感じたり、考えたり、そして

新しい友達ができる貴重なプログラムだと思います。来年はさらに多くの学生の皆さんに参加していただけたらと思っています。

高橋 直子(環境マネジメント学科1年)



環謝祭



10月23日(土)24日(日)の両日、第10回鳥取環境大学大学祭『環謝祭』が開催されました。今年は環謝祭も10回目となり、新たな節目の年。今年のテーマとなっていたのは、「かんしゃ」。今回は、「環謝祭」という名前からテーマを導き出し、在学生・卒業生を始め、地域の方々、鳥取環境大学に関わりをもって頂いている全ての皆様に感謝の気持ちを伝えたいということで、このテーマに決定しました。

環謝祭実行委員会が主催し企画立案

した各種イベントを中心に、エコビンゴ、学生バンドライブ、アカペラライブ、ダンスなどの学生団体のステージイベント、21団体が出店した模擬店、開学10周年を期に卒業生と在学生が語り合う「青空ディスカッション」など、多種多彩なイベントで盛り上がりました。また本部講義棟11講義室にて「影山ヒロノブ&栗林みな実 アニソンライブin環謝祭」を催し、鳥取に限らず、県外からのお客様のご来場もあり、立見が出るほどの大盛況となりました。お陰様で両日ともに大きな事故もなく無事に終了することができました。

大学祭において環境活動を実施すべく、毎年恒例となっております模擬店でのリターナブル食器の使用義務付けとゴミの分別の徹底、今年は新たに「コスプレ喫茶」「流しそうめん」などのイベントで使用された、サトウキビの搾りかすから製造された食器、バガスモールの使用など、環境への配慮に力を入れました。

本学学生のみならず、多くのお客様

にご来場頂き、賑やかな大学祭となり、多くの学生が大学での良き思い出の一つになったのではないかと思います。

今回も私ども実行委員に限らず、学友会執行部の方々、当日スタッフ、司会として参加して頂いた本学学生の皆様、理事長や学長をはじめ、ご支援頂いた教職員の皆様、卒業生、地域の皆様など、環謝祭に関わってくださった全ての方々へ心よりの感謝を申し上げます。来年もどうぞこの「環謝祭」にご期待くださいますようお願い申し上げます。

大学祭実行委員会 委員長
神谷 隼人(環境政策学科3年)



第7回全国高校生環境論文 TUESカップ

地球環境問題について、高校生の意見を発表してもらうことを目的に、全国の高校生から環境論文を募集しました。募集テーマは「環境問題ーわたしのまちから考える」。北は北海道、南は沖縄まで全国26都道府県、48高校から766作品の応募がありました。自身が暮らすまちに起こる環境問題と向きあういいきっかけとなりました。

10月10日(日)に、入賞作品の表彰式が行われ、あわせて入賞作品のうち上位4作品の発表会が行われました。表彰式・発表会終了後には、環境映画「OCEANS」の上映会も行われ、多数の方が来場し、盛会裏に終了しました。

〈受賞者一覧〉

【環境大賞】

Do Tank > Think Tank

中川沙羅葉さん 筑波大学附属坂戸高等学校(埼玉)3年

【鳥取県知事賞】

コウモリ研究と地域環境の関係性について

中村一輝さん 北海道富良野高等学校(北海道)3年

【鳥取市長賞】

あなたのまちにもいませんか？

海老原健太さん 栃木県立小山北桜高等学校(栃木)2年

【新日本海新聞社賞】

‘2010年’の決意ギフトョウが消えた里山から

春木貴志さん 大阪府立園芸高等学校(大阪)3年

【学校賞】

都城工業高等専門学校(宮崎)
兵庫県立尼崎北高等学校(兵庫)
島根県立津和野高等学校(島根)

【奨励賞】

北海道札幌藻岩高等学校(北海道) 神戸学院大学附属高等学校(兵庫)
北海道滝川高等学校(北海道) 育英西高等学校(奈良)
愛知県立岡崎工業高等学校(愛知) 聖カタリナ女子高等学校(愛媛)
愛知県立鶴城丘高等学校(愛知) 岡山学芸館高等学校(岡山)
岐阜県立岐山高等学校(岐阜) 福岡工業大学附属城東高等学校(福岡)



【佳作】

落ち葉による硝酸態窒素の除去方法

園田修平さん 宮崎県立宮崎大宮高等学校(宮崎)2年

三木のまちで考える～サッカー小僧からみた環境問題～

菊本祥平さん 兵庫県立三木北高等学校(兵庫)3年

海と人とが生きるためには

吉井萌恵さん 筑波大学附属坂戸高等学校(埼玉)3年